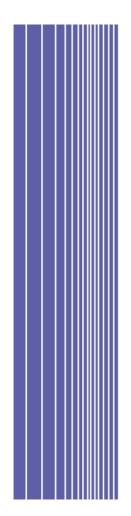


平成19年3月1日発行 通巻378号 発行(社)日本オーディオ協会

> 2 0 0 7 Vol. 47

No 2 & 3



JAS インフォメーション

春日 二郎 相談役を偲ぶ

平成 18 年 12 月度 理事会・運営会議報告 平成 19 年 2 月度 理事会・運営会議報告

連載:テープ録音機物語

阿部 美春

その 23 アンペックスの台頭 (4) 600 シリーズ・テープ録音機

メンバーズプラザ

自薦ソフト紹介・音楽ソフト 大林 國彦 自薦ソフト紹介・映像ソフト 大林 國彦



製日本オーディオ協会



CONTENTS



(通巻378号) 2007 Vol.47 No.2/3 (2·3 月合併号)

発行人: 鹿井 信雄

社団法人 日本オーディオ協会

〒101-0045 東京都中央区築地 2-8-9

電話: 03-3546-1206 FAX: 03-3546-1207

Internet URL

http://www.jas-audio.or.jp

3 JAS インフォメーション

春日 二郎 相談役を偲ぶ

平成18年12月度 理事会・運営会議報告

平成19年 2月度 理事会・運営会議報告

6 連載:テープ録音機物語

阿部 美春

その 23 アンペックスの台頭 (4) 600 シリーズ・テープ録音機

13 メンバーズプラザ

自薦ソフト紹介 ・ 音楽ソフト 大林 國彦 自薦ソフト紹介 ・ 映像ソフト 大林 國彦

2・3月合併号をお届けするにあたって

平成 18 年 4 月号 (Vol.46、No.4) より会誌 JAS ジャーナルをネット配信に切替え、 JAS ホームページから簡単な手続きで会員登録のできる「無料賛助会員フォーム」を 8 月に整備し、現在までに 500 名強の新賛助会員をお迎えしました。

オーディオ・オーディオビジュアルに関心のある人たちに情報をお届けし、また、 日本オーディオ協会の活動をご理解いただきたく、もっと多くの人達に JAS ジャーナルをご覧いただきたいと願っています。

JAS ジャーナルをご覧いただいている皆様におかれましては、仲間の皆様に、また職場の皆様に会員登録をお勧めいただきたくお願い致します。

JAS ジャーナルを魅力ある内容に、またお役にたつ内容にするために、ぜひ皆様の ご意見、ご提案をいただきたくお願い致します。メールまたはファックスでいただけ れば、都度、編集委員会で検討させていただきます。

(編集委員長)

編集委員会委員

(委員長)藤本 正煕 (委員)伊藤 博史((株)D&M デノン)・大林 國彦・蔭山 惠(松下電器産業(株)) 北村 幸市((社)日本レコード協会)・高田 寛太郎(アムトランス株)・豊島 政実(四日市大学) 長谷川義謹(パイオニア(株))・濱崎 公男(日本放送協会)・森 芳久・山﨑 芳男(早稲田大学)

JAS Information

春日 二郎 相談役 を偲ぶ

アキュフェーズ (株) 取締役相談役、日本オーディオ協会相談役・元理事の春日 二郎さんが、去る 1月 11日に89歳で永眠されました。

2月16日に新横浜プリンスホテルにおいて「お別れの会」(お別れの会委員長 齋藤重正アキュフェーズ社長)が行われました。

菅野 沖彦さんが弔辞をのべられ、春日さんが生前 に望まれたというガブリエル・フォーレのエレジー が献奏され、多数の関係者が春日さんのご功績を偲 びました。

春日さんは社団法人日本オーディオ協会の設立発 起人のお一人で、理事として、また編集委員として 協会の発展につくされました。謹んでご冥福をお祈 り申し上げます。

1918 年長野県伊那生まれで、1946 年に「有限会社春日無線電機商会」を長野県駒ヶ根市に設立され、1946 年には「トリオ」(現(株)ケンウッド)に社名を変更、1957 年に日本初の FM チューナーを開発、1962 年には日本初のトランジスタープリメインアンプを開発されました。

自らも熱心なレコード演奏家のお一人で、1972年にアキュフェーズ(株)を創立され、優れたオーディオコンポーネントを開発・商品化され、ピュア・オーディオの発展につくされました。

オーディオとのかかわりの足跡や、交流のあった方々の思い出、起業と人生をまとめられた「オーディオ 昨日 今日 明日 (文芸社 2006年5月刊)と、ご趣味の短歌から選ばれた歌集「酔芙蓉」(短歌新聞社 2007年2月刊)などの著作を通して音楽・オーディオへの情熱とお人柄が偲ばれます。







JAS Information

12 月度理事会・第68 回運営会議の報告

平成 18 年 12 月 6 日に 12 月度理事会・第 68 回 運営会議が理事 24 名の出席のもと虎ノ門パストラ ルで開催されました。

12 月度理事会議事

(第1号議案) 新会員の承認を求める件

10月2日理事会以降12月4日現在までの間に、法人会員および個人正会員の入会は無く、個人賛助会員が398名になったことが報告され承認されました。

第67回運営会議議事

(1) 平成18年度「音の匠」紹介

音の日実行委員長の森芳久理事が第 11 回「音の匠」として顕彰する三宮麻由子氏(エッセイスト)のプロフィールを紹介されました。

(2) 2007年度 A&V フェスタ実行委員会体制 2007年度に実施する A&V フェスタの担当副会長 として山内 慶一副会長 (パイオニア(株)) 実行委員長として西 國晴氏 (パイオニア(株)) 副委員長 として渡邉 哲純氏 (日本ビクター(株)) を事務局より推挙し承認されました。

(3) 音の日旬間体験キャンペーンの実施

本年度の普及推進事業の一つである「音の日旬間 体験キャンペーン」の実施内容が事務局より報告さ れました。

12月6日「音の日」を中心にした前後の旬間に、 各社自慢のオーディオおよびオーディオビジュアル 機器での視聴体験ができるショールームや視聴施設 をホームページ(http://www.jas-audio.or.jp/)で案 内し、できるだけ多くの人々にこれらの施設で実体 験をしていただく普及活動で、これらのショールー ムや視聴施設には、愛聴ソフトなどを持参して「自 分の求める音」をじっくりと体験できる場所も含ま れます。



(協賛施設紹介ページ)

(事務局注記)

期間中に協賛いただいた法人会員各社に御礼申し 上げます。

「音の日旬間体験キャンペーン」の実施をきっかけとして、会員各社のイベント情報を協会ホームページ「ショールームに行こう」欄に掲載しています。

http://www.jas-audio.or.jp/showroom/index.html 地図上の該当地域をクリックして最新情報をお確か め下さい。

会員各社におかれましては、引き続き最新情報の 提供をお願い致します。

JAS Information

2月度理事会・第69回運営会議の報告

平成19年2月7日に2月度理事会・第69回運営会議が理事24名の出席のもと日本オーディオ協会会議室で開催されました。

2月度理事会議事

(第1号議案) 新会員の承認を求める件

12月6日理事会以降1月30日現在までの間に、 法人会員および個人正会員の入会は無く、個人賛助 会員が463名になったことが報告され承認されまし た。

第69回運営会議議事

(4) 平成19年度の事業について

平成 18 年度は現状おおむね当初の予算内で推移しており、これから平成 19 年度の予算編成作業を始めるに当たり、事務局より以下の施策を含めて検討するとの説明があり、意見交換が行われました。

- 1)平成 18 年度に会費の改訂を実施させていただきました。平成 19 年度以降は目に見える普及事業の実績を積重ね、協会活動への理解を深めていただき、より多くの賛同会員の獲得による経営基盤の強化をはかります。
- 2)平成19年度は協会設立55周年にあたり、また平成20年より5年以内に一般法人か公益法人かの選択手続きが必要とされる國の法人制度改革への準備を始める年となります。これに対処し55周年事業委員会及び制度検討委員会を設けます。
- 3) A&V フェスタは A·AV の潮流を一望できる 魅力と共に多くの視聴機会があり、コストパフォーマンスの良いフェスタへの改革が望まれています。 来場者・出展者双方に望まれるフェスタへの再生を 目指して、会場・会期・会場構成を刷新する A&V フェスタ 2008 (平成 20 年 2 月 23 日 ~ 25 日・パシフィコ横浜カンファレンスセンター)を開催します。

- 4) 普及推進事業として「視聴体験機会の提供」 「青少年育成イベント」「サラウンド啓蒙活動」の3 テーマについて、普及推進部会のワーキンググルー プにおける審議をいただきながら実行体制を整備して実施します。
- 5)普及広報活動として会誌をネット配信に切替え多くの人たちへの情報発信を狙っています。ホームページの魅力向上・広報強化・検索エンジン対策等の手段をつくして改善をはかり、閲覧者と会員数の拡大に向けての対応を進めます。

啓蒙テーマ特設ページとして着手したサラウンドホームページは訪問者が増加しています。特設ページ第2弾としてデジタルオーディオプレーヤーの知識向上の啓蒙に着手します。

(5) A&V フェスタ 2008 の開催概要

2007 年度の A&V フェスタを「A&V フェスタ 2008」として 2008 年 2 月 23 日(土)より 25 日(月) の 3 日間、パシフィコ横浜・カンファレンスセンタ ーにて開催します。

"A&V フェスタ 2008"の企画にあたっては、アンケート調査などを実施して要望を集め、たび重なる準備委員会で検討をつくし、なるべく多くの人たちに新しいトレンドを見て触れていただき、かつ、じっくりと聴いて視ていただくことが両立できるように、会場、会場構成、会期を変えて実施することとしたと事務局より報告されました。

(事務局注記)

3月7日(水)2時より、出展社募集説明会をパシフィコ横浜・カンファレンスセンターにて開催します。新会場の内覧をかねて御参加をお待ちしています。

「テープ録音機物語」



その23 アンペックスの台頭(4)

600 シリーズ・テープ録音機 阿部 美春

1.600型の概要

アンペックスは 1948 年の 200 型以来、3 モーター式のテープ駆動機構を踏襲してきたが、1954 年になってプロ用として初めて、ワン・モーター式の駆動機構を設計し、本格的なポータブル形式のテープ録音機を発売した。テープ速さはシングル、7-1/2 インチ/秒だけ、601 型になってから 3-3/4 インチ/秒のモデルも選べるようになった。ヘッド構成は、600 型はフルトラック消去、録音、再生の 3 ヘッド、601 型になってハーフトラックのバージョンも作るようになった。

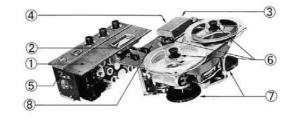
重量は350型ポータブルの機構部69 Lbs、アンプ部(モノ)38 Lbs,合計107 Lbs(48.5 kg)や、失敗作となった400型の80 Lbs(30 kg)に対し、600型は1ケースで28 Lbs(12.7 kg)と名実ともに小型軽量となった。サムソナイト社製のなめし皮ケース(Saddle Tan Case)も軽量化に一役買っている(写真23-1)。価格は\$545.00*1である。当時、ポータブル・ケースといえば合板にレザー貼り、アルミ合金板、ファイバーなどが使われ、コーナーは皮と金具で補強されていた。



写真 23-1 Ampex 600 型テープ録音機 (185)

当時、他社のプロ用のポータブル型はマグネコード社 PT-63型 (51 Lbs, \$ 740) *2、プレスト社 SR-27型 (35 Lbs, \$ 809) *3 (いずれも 7 インチ・リール3 ヘッド・2 モーター式)等があった。

機構部とアンプ部は写真 23-2 のように別個に外せるようになっていて保守を容易にしている。また、プロ用の録音機では当たり前になっているが、メカとアンプは切り離して、特注や設計変更に備えている。メカとアンプのパネルはアルミ・ダイキャストでできていて、堅固であると同時に、量産化の意気込みが感じられる。 図 23-1 に外観図と各部名称を示す。

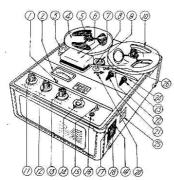


- (1) セパレート録音・再生アンプ
- (2) VU3-5
- (3) 消去·録音·再生^ゥド
- (4) 6ミクロン・ギャップ 再生ヘット
- (5) ロー・インピーダンス入出力
- (6) 超精密ペアリング とシャフト
- (7) 最大 8 オンスのテープ・ テンション・コントロール
- (8) ランプ付録音安全ボタン

写真 23-2 Ampex 600 型の構成と特長 (185)

表 23-1 に 600 型の主な仕様を、図 23-2 に録音再 生総合特性の実測例 (189)を示す。当時としてはプロ 用として十分実用になる立派な性能であった。

このメカが基本となってアンペックスはのちにコンシュマー用ステレオテープデッキに発展していくが、他社(米国ブランド、日本製)からも600型によく似た、普及型のテープ録音機が一時期発売されて物議をかもしたことがある。



(1)	VUITの予思調度	3,137.	フ1ン人の日本調整
(2)	VUST	(14)	マイク・コネクター
(3)	テープガイド	(15)	電源スイッチ
	(ヘブリング・ローラー)	(16)	ヘッドホン・ジャック
(4)	供給リール	(17)	出力コネクター
(5)	リール抑え	(18)	電源コンセント
(6)	ヘッド・ハウジング	(19)	ライン入力
(7)	消去、鎌音、再生ヘッド	(20)	鎌音セーフティ・ボタン
(8)	キャプスタン	(21)	録音・再生ノッブ
(9)	ピンチローラー	(22)	同 停止ポジション
	(キャプスタン・アイト ラー)	(23)	巻戻し・早送りノッブ
(10)	巻取りリール	(24)	同 停止ポジション
(11)	マイク入力音量調整	(25)	ネームブレート
(12)	モニター切替	(26)	テープガイド

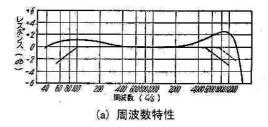
図 23-1 600 型外観図 (189)

この 600 型は、1956 年には 601 型となってアンプの入出力回路が一部改造され(4項、録音・再生増幅器参照)、同年、2 トラック・ステレオの S-5290型(後に 601-2型)が発売された(\$ 995.00)(写真23-3)。さらに 1968 年になって真空管式からトランジスター式に変り、型番も AG-600型(写真23-4)になって、1977年頃まで生産された。また、ステレオ・ミュージック・テープが市販されるようになって、600型のメカを使った、ステレオ再生専用機 612型(写真23-5)が、620型スピーカーシステム(写真23-6)と一緒に 1955年に発売された。価格は 612型 \$ 395、620型 \$ 339(ステレオの場合)である。612型プレーヤーは翌 1956年にはコンシュマー用に設計された Aシリーズ・テープデッキに代わることとなる。

- (注*1) 価格は1955-1956 Tape Recorder Directory による。
- (注²) 本物語その 8 参照。価格は 1952 Tape Recorder Directory による。
- (**注*3**) 本物語 11 参照、SR-27 型は RC-7 型を改造した R-27 型トランスポートと A-920-B 型アンプを組合 わせたものである。 価格は 1955-1956 Tape Recorder Directory による。

項 目	仕 様		
テープ幅	1/4 インチ		
テープ速さ	7-1/2 ips (ips:インチ・秒)		
録音トラック	Full Track		
リール	最大 プ゚リール		
周波数特性	±2dB, 40-10,000 Hz		
	±4dB, 40-15,000Hz		
SNH	ピーク録音レベル対非聴感補正雑音比		
100	Full Track: >55 dB		
ワウ・フラッター	<0.17 % rms		
起動時間 <1/5 秒(定速時)			
停止時間	<1 秒		
プレイ時間	32 分 (7" リール、1200' テープ		
プレイ時間精度	±0.2%(30分番組で±3.6秒)		
早送·巻戻時間	90 秒 (1200フイート・テープ)		
録音入力	マイク: ハイ・インピーダンス		
	(601型はブラグイン・マイクトランス・アダプターで		
	ローインピーダンス・マイク が使える)		
	ライン: 不平衡、250kΩ、0.5V		
再生出力	不平衡≥10kΩ		
	(601型は600 Ω、1.23V、平衡または不平衡)		
電源	117V, 60Hz, 0.52A, 61W		
外形寸法	機構部表面: 9-5/16"x 12-1/2"		
	アンプ部表面: 6-1/8"x 12-1/4"、奥行 5"		
	ポータブルケース: 8"x 13-3/4"x 16-1/2"		
重量	28 Lbs (12.7kg)		

表 23-1 600 型の主な仕様



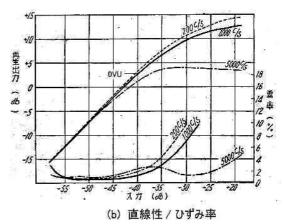


図 23-2 600 型の録音再生総合特性 [実測例] (189)

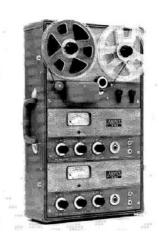


写真 23-3 Ampex 601-2 型 (2トラック・ステレオ) ⁽⁶⁰⁾



写真 23-4 Ampex AG-600 型 (191)



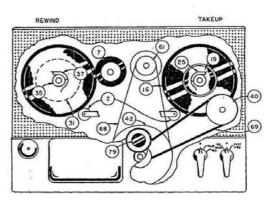
写真 23-5 Ampex 612 型 写真 23-6 620 型 ステレオ再生機 (192) スピーカーシステム (192)

2.テープ駆動機構 (Tape Transport Mechanism) テープ駆動機構は1個のヒステリシス・シンクロナス・モーターを原動力としてプーリー、ベルト、アイドラー、クラッチ等を使って、キャプスタンと2個のリール台を駆動している。そしてテープの各モード操作は2個のノッブの切替によって行われる。

一つは停止、再生、そして録音、もう一つは巻戻し、 停止、そして早送りである。内部の構造は写真 23・ 7 に見られるよう諸々の機構はダイキャスト・パネ ルに取り付けられていて堅牢である。以下、図 23-3 で各モードにおける動作を説明してみよう。図 23-4 に機構部の分解図を示す。



写真 23-7 600 型 機構部裏面 (190)



- (2) Shock Relief Brake
- (7) Rewind Idler
- (16) Fast Forward Clutch
- (19) Play/Takeup Clutch
- (25) Holdback Brake (31) Rewind Clutch
- (35) Holdback Brake Drum
- (37) Holdback Brake
- (40) Play/Takeup Pulley
- (42) Capstan Flywheel
- (61) Motor Pulley (68) Nylon Drive Belt
- (69) Takeup Belt
- (79) Capstan Idler

図 23-3 テープ駆動機構の動作

2.1 スタンバイ (STOP)

アンプの電源スイッチをいれるとモーター(63)が 回転する。そしてモーター・プーリ(61)からナイロ ン・ベルト(68)によってキャプスタン・フライホイール(42)が駆動されて、キャプスタンが回転する。 一方、キャプスタン・フライホイールの回転がベルト(68)を介して巻取りプーリー(40)を回転し、待機 状態となる。 金属製のブレーキ・ローラー(2)はゴムタイヤが巻かれた早送りと巻戻しクラッチ・タイヤ(16 と 31)を押し付け、両リール台は静止し、テープは停止状態、すなわちスタンバイの状態にある。

この状態で、キャプスタンは回転しているので、 プレイ操作に入ったとき、テープはただちにプレイ 速度に達することができる。

2.2 プレイモード (PLAY)

ノッブがPLAYの位置に切り替わると次の動作になる。

- (1) 巻取りプーリー(40)とベルト(69)の回転が巻 取りクラッチ(19)に接触し巻取りリール台が 反時計方向に回転する。
- (2) 巻取り側のブレーキ・ローラー(2)は早送りクラッチ・タイヤ(16)から離れる。
- (3) キャプスタン・アイドラー(79)は機械的にキャプスタンに圧着して、テープが走行する。 テープは供給側リールから繰り出され、巻取り側リールに巻き取られる。
- (4) 供給リール軸はテープに引っ張られて反時計 方向に回転する。巻戻し側のブレーキ・ロー ラー(2)は巻戻しクラッチ・タイヤ(31)に接触 したままなので、スリップがクラッチとリー ル台アセンブリー(30)の間で生じる。そして このスリップによって摩擦が生じて、ベーク ライト・ドラム(35)上の巻戻しホールドバッ ク・ブレーキ(37)が必要なバックテンション をテープに与えることになる。

2.3 巻戻しモード (REWIND)

プレイ・ノッブがニュートラル (STOP ポジション) になければ巻戻しと早送りのノッブは操作できない。このノッブが巻戻し位置に置かれた場合、

- (1) 両方のブレーキ・ローラー(2)はリール台から離れる。
- (2) 供給側リール軸がわずか右にシフトして、巻 戻しアイドラー(7)がモーター・プーリー(61)

- と巻戻しクラッチ・タイヤ(31)の間に入って、 巻戻しリール台を時計方向に回転させる。
- (3) テープが巻取りリールから引かれるとともに バックテンションは巻取アセンブリー上のホ ルドバック・ブレーキ(25)によって適当に 与えられる。

2.4 早送リモード (FAST FORWARD)

巻戻し/早送りノッブが早送りの位置に置かれた 場合、

- (1) 両方のブレーキ・ローラー(2) は離れる。
- (2) ゴムタイヤのついた早送りクラッチ(16)はモーター・プーリー(61)に接触し、巻取りリール台を駆動する。
- (3) バックテンションは、巻戻しアセンブ リーのホールドバック・ブレーキ (37) によっ て与えられる。

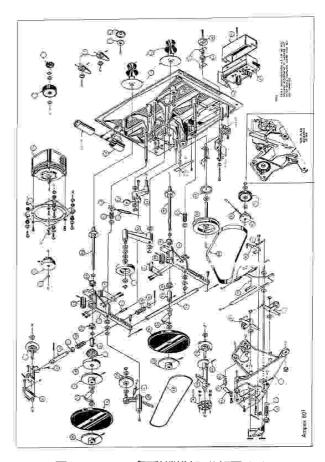


図 23-4 テープ駆動機構部 分解図 (186)

3.ヘッド

ヘッド・ハウジングは従来のアンペックスのものと違って、前蓋がなく、ヘッドはハウジングの奥深くに置かれている。ハウジング内部にはパーマロイのシールド板が施されていて、ヘッドケースのシールドと相まってシールド効果はかなり優れている(写真 23-8)。前蓋がないので、ヘッド前面がよく見えて、テープの走行状態がわかり、またテープ編集もし易い。消去、録音、再生3ヘッドそれぞれの性能は、総合特性でみられるよう、かなりよい特性をだしている。再生ヘッドのギャップ長0.00025インチ(6ミクロン)は、当時としてはアンペックス600型の大きな特長の一つになっている。

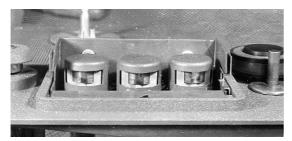


写真 23-8 600 型のヘッド表面 (190)

4. 録音·再生増幅器 (Electronics)

600型は3ヘッド式であるから録音回路と再生回路もセパレート式になっている。

図 23-5 に 600 型の増幅器系統図、図 23-6 に 601 型になってからの録音入力回路と再生出力回路、図 23-7 (次頁)に 600 型の増幅器回路図を示す。構造 的には電源を含めて増幅器全部を一つのシャーシに、 コンパクトに収めている (写真 23-9、23-10)。

(1) 録音増幅器

録音入力はハイ・インピーダンス・マイク入力と不平衡型 250k ライン入力が別個のレベル調整を通してミクスできる。マイク入力は601型になってプラグイン・トランスの使用でローインピーダンス・マイクが使えるようになった。録音増幅器初段、すなわちマイク用プリアンプは低雑音ミニチュア管5879が使われている。

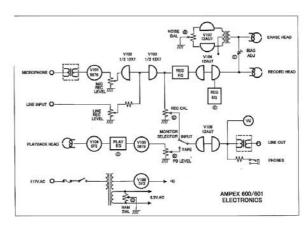


図 23-5 600/60 型 録音再生増幅器系統図

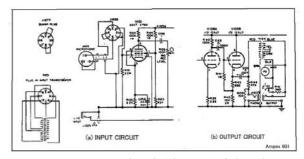


図 23-6 601 型 録音再生増幅器の入出力回路 (186)

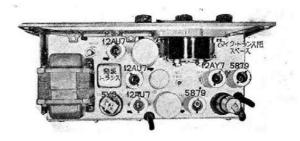


写真 23-9 録音再生増幅器 シャーシ上部 (190)

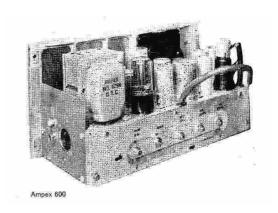


写真 23-10 録音再生増幅器後面 (190)

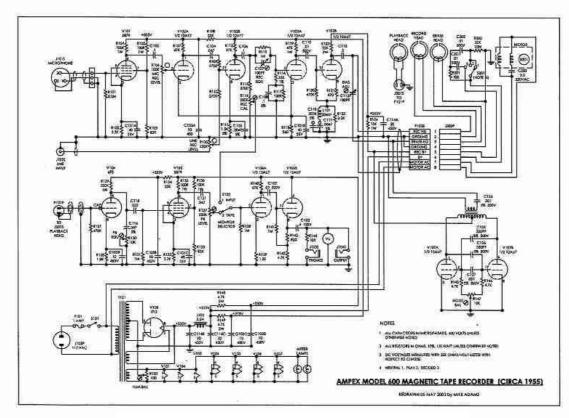


図 23-7 600 型 録音再生増幅器回路図 (194)

録音補償 (RECORD EQ) は3段目 (V102B)と4段目(V103A)の間(CR型)と、録音出力段(V103B)のカソード側電流帰還(LC)で2回に行っている。図23-8上図(189)に録音補償特性(実測例)を示す。録音モニター回路は3段目(12AY7)のプレートから、すなわち録音補償の前から取りだしている。

録音ヘッドは出力段 12AU7 (V103B) のプレートから直接 C を介して、定電流回路によって駆動される。この方法はアンペックス 300 型以来同じ方法である。

バイアスおよび消去用発振器は 12AU7 をプッシュプル接続したマルチ・バイブレーター型で、発振周波数は 54 k Hz である。601 型は 100 k Hz になっている。バイアスは発振トランスの 2 次側から可変コンデンサー (バイアス調整)を介して録音ヘッドに供給される。消去ヘッドもトランス 2 次側からコンデンサーを介して消去電流が供給される。両カソード間の可変抵抗器は DC ノイズ・バランス調整である。

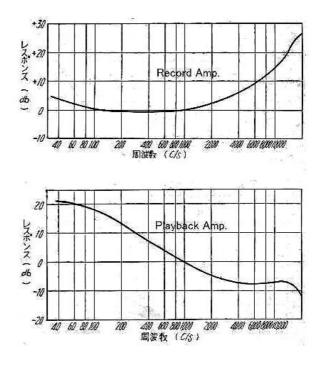


図 23-8 録音再生増幅器の周波数特性(実測例)⁽¹⁸⁹⁾ (上図が録音補償特性、下図が再生補償特性)

(2) 再生增幅器

再生ヘッド出力は先ず高増幅率 3 極管 6F5 メタル管、V104)) に入り、そのプレート側で CR 型の再生補償 (PB EQU) が行われる。再生補償特性 (実測例) は図 23-8 下図 (189) のとおりである。

2 段目 5879 (ミニアチュア 5 極管)の後、半固定の再生レベル調整(PB LEVEL)に入る。そしてモニター切替(MONITOR SELECTOR)で録音入力とテープ出力が切替えられる。3 ヘッド式であるから同時再生モニターができ、再生回路のゲインは半固定で一定のレベルに調整されているので、入出力の比較が同じレベルでできることになる。モニター回路は12AU7の2段増幅で、2段目出力段はカソード・フォロワー出力になっている。VU メーターとヘッドホン・ジャックはここにつながる。601型ではこの後に出力トランスが追加されて、その2次側が平衡型600出力となっている。

(次号につづく)

(お詫びと誤り訂正)

本物語その 19 (JAS Journal 2006 年 8・9 月号) 表 19-1 の中で 300型の発表は 1949年の誤りでした。 謹んでお詫びし訂正 いたします。

【参考文献】(前号よりつづく)

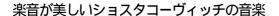
- (185) "Ampex 601 The portable recorder"Ampex International, Bulletin AI-17
- (186) "Ampex model 601 Operation Maintenance Manual" Ampex Audio Corporation, 3rd.Edition, (1958.10)
- (187) "Ampex 600 Review" Audio Engineering, (1954.07)
- (188) 鴨治儀秋 "新発売 アンペックス 600 型テープ レコーダー" ラジオ技術 (1954.11)
- (189) 松岡進 "AMPEX 600 型テープ録音機 " 放送技術 (1956.11)
- (190) 松岡進 "放送用ポータブル・テレコ-アンペック ス 600 型はどんな特性?" ラジオ技術 (1956.11)
- (191) "AMPEX AG-600B Professional PortableAudio Recorder" Ampex Corporation, (74.01)
- (192) "Ampex 612" Sams Fotofact Set #343, Folder #2,
- (193) Ampex Audio Products Catalog (1963.10)
- (194) "Ampex 600 Schematic"

 http://recordist.com/ampex/ schematics/

MEMBERS PLAZA

ドミトリー・ショスタコーヴィッチ 交響曲第7番八長調 「レニングラード」

> オレグ・カエター二指揮 ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団 ARTS Music (輸入盤) 47667-8



オレグ・カエターニとミラノ・ジュゼッペ・ヴェル ディ交響楽団によるライヴ録音で、ショスタコーヴィ ッチの交響曲 10 枚組の全集が ARTS Music から SACD Hybrid で発売された。

最初に出た交響曲第1番と第15番のカップリング盤を聴き、印象を強くして月毎に入手し聴いてきた。本年の1月初旬に交響曲第7番など3枚程が入手でき全曲が揃ったことになる。この中で、特に印象に残った交響曲第7番「レニングラード」を参考に紹介したい。

オレグ・カエター二は、かの巨匠イーゴリ・マルケヴィッチの子息で56年に生まれた、マニアの間で人気が出ている指揮者である。一方ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団は、シャイーが創立し、今回のショスタコーヴィッチの好演奏を披露するなど、将来的に期待されているイタリアの新進オーケストラである。

ショスタコーヴィッチの交響曲第7番「レニングラード」については、旧ソ連時代のレニングラードで、ある工業省の役人から、「大祖国戦争」と呼ぶドイツ・ファシスト軍との戦いの1941年に作曲され、18ヶ月間ファシスト軍がレニングラードを包囲のなか、この曲が民衆の勇気を鼓舞し、祖国を護った記念すべき交響曲であるとの力説を記憶していた曲である。

真意の程は別にしても、この曲は旧ソ連での「大祖 国戦争」の時代に捧げられた音楽的記念碑、自由諸国 では反ファシズムの苦悩の印象として聴かれた音楽で



あったことに相異なく、作者からの「ファシズムと戦い、来るべき我々の勝利に、レニングラードにこの曲を捧げる」との意のメッセージが「プラウダ紙」に掲載され、首都モスクワの疎開地クイビシェフで初演され、喝采を得た曲である。

カエター二は、「人間の主題」の緩やかな進み方と「戦争の主題」の管楽器の音を強く美しく指定し、2楽章以降の弦の歌わせ方や、管楽器の音色と息の長い演奏が見事で、快適なリズムに加え緻密で鮮明な演奏が素晴らしく、社会主義時代に聴けなかった音楽がそこに存在していた。

2000年1月、アウディトリウム・ディ・ミラノでのライヴ録音であり、全体に豊かな自然感が漂う明るい音である。CD層に比べて、SACD 2chでは中低音域が強音でも明快で解像度が高く、伸びやかで快適性のある音質、音の詰まる様子も皆無であり全ての楽器音が明朗に鳴り、疲れを感じさせない優れた音質である。

マルチ・チャンネルでは、ホールの豊かな響きが加 わった音が再現し、更に、各楽器の音像が明確に定位 する音場を創造してくれる。

メディアには、「Audio Phile Recording」としてシリーズ化された高音質の録音であることを明記して、 参考になる録音データーの詳細がブックレットに紹介されている。

尚、このシリーズは、昨年末に輸入盤の全曲 (10 枚組、リリース番号 47850-8) が発売された。

大林國彦(会員番号0799)

MEMBERS PLAZA



「16 ブロック」
監督:リチャード・ドナー
キャスト:ブルース・ウィルス/
モス・デフ/デヴィッド・モース/etc
ソニー・ピクチャーエンターテインメント
TBDD-42585

高品位サウンドのアクション映画

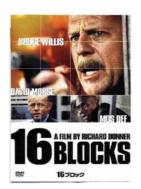
「タイムライン」などの傑作を世に送り出したリチャード・ドナー監督が、ニューヨーク市警の疲れた中年刑事のサバイバル・バトルを描いた「16 プロック」が DVD で発売になった。

ニューヨーク市警のアル中で疲れた中年刑事ジャック(ブルース・ウィルス)に上司から、16 ブロック(約1.6km)先の裁判所に証人エディ(モス・デフ)を送り届けると云う簡単な命令があった。途中、何者かに襲撃されると言う想定外の事態に追い込まれ、身を呈して活躍をすることとなる。

護送中の証人エディが、警察内部の不正を目撃しており、これを証言するための出頭であった。法廷での証言が始まるまで残された時間は118分程度と僅かしかない状態の中で、これを阻止しようと昔の仲間であった刑事フランク(デイビット・モース)ー味の執拗で頭脳的な攻撃を受けるのである。

市警対1人の刑事、飛び散る銃弾、SWATの追撃とバスの暴走など、市民をも巻き込みながら立向うことになるジャックにとって、壮烈な戦いが始まり、史上最悪の一日となったのである。

バス・ジャックの後、市警側の交渉人と人質解放への形通りの要求や、多めの人質数を告げて解放時の時間稼ぎを計画したり、エディの願望であるシアトルでの菓子店創業の夢を実現させる目的で逃亡させようと変装させ、人質の解放にあわせて逃走させるが、ジャックの真意を知り信頼をより高めて、バスに逆戻りし、互いに協力し合って難局を切り抜けて



行く。市警の不正については自ら証人となるべく、 フランク達市警から執拗な攻めや妨害を避けながら ジャックは裁判所に出頭する。(DVD の特典にもう 一つのエンディングを設け、選択が可能である)

ジャックの緊張感を示唆した沈黙、対照的によく 喋るエディの両者の心理状態がよく分るが、ジャックにとっては最悪のサバイバル・バトルであり、体力の衰えを隠し切れない疲れた中年刑事には、誇張 的なアクションは見られず、自然体に演じる姿に好感がもて、観て楽しめる映画となっている。

映像は、鮮度が高く、艶消しの自然な彩度の映像が優れており、S/N 比の高い画像で少々冷めた感じのニューヨークを映し出している。

音声のバランスに優れた録音が素晴らしい。サラウンド・サウンドでは、爆発シーンなどの派手な音場や、動き回る音は控えめに設定しているが、包囲感や低音域は充分にあり、銃声の炸裂音などは実感のある音が体験できる。

会話の声は滑らかで聴き易く、古いビル内での説得の場面(chp.13)では、場面毎に変化する声質で位置が分かり、バスへの強行突破での爆発音と音の動き(chp.20)、裁判所の駐車場でのジャックが「必要がなくなった」とフランクに武器を差し出す場面(chp.25)の残響の大きな会話など、ストーリーに合った、諦め、恐怖感、安堵感等々、心理的要素を助長するかのような場面毎の音造りなど、印象的な音響設計である。

大林國彦(会員番号0799)